

介護現場におけるデジタル化等の状況について

現状

- ✓ 東京都では、都内の高齢者施設や介護サービス事業者の現状を把握し、高齢者保健福祉計画策定の材料とするため、**3年に1回「在宅サービス事業者運営状況調査」及び「施設・居住系サービス事業者運営状況調査」を実施**※。

※在宅系/施設・居住系の各サービス種別・事業所規模別に、ロボット・ICT機器等の導入実績に加え、ICT等の活用の推進に向けた課題等を把握

- ✓ 令和4年度調査結果については、**第9期高齢者保健福祉計画及び令和6年度事業に反映**

- 第9期計画において、重点課題の一つとして「さらなる職場環境改善（介護現場の生産性向上）」を設定
- 介護現場におけるDX推進に向け、令和6年度新規事業を展開するとともに、既存事業を拡充

例1) 介護DX推進人材育成支援事業【新規】

- ノウハウを持つ人材が少なくデジタル化が進まない状況があることから、介護事業所のDX人材の育成を支援
- ※ICT等導入推進の課題：**在宅系の約4割が「ICT・ロボット等についての情報・知識の不足」と回答**

例2) 介護現場改革促進事業【拡充】

- 在宅系で次世代介護機器の導入がほとんど進んでいないことから、在宅系のモデル事業所を新たに育成
- ※見守り機器の導入率：**在宅系（通所等）11.9%、在宅系（訪問）3.3%、施設系76.6%**

論点

- ✓ 令和7年度に上記調査を実施する予定であるが、**介護現場におけるデジタル化等の状況をより把握するためには、どういった調査項目が考えられるか。**
- ✓ **今後更に介護現場のDX化を進めるためには、どういった課題があると考えられるか。**

ICT等の活用の導入実績

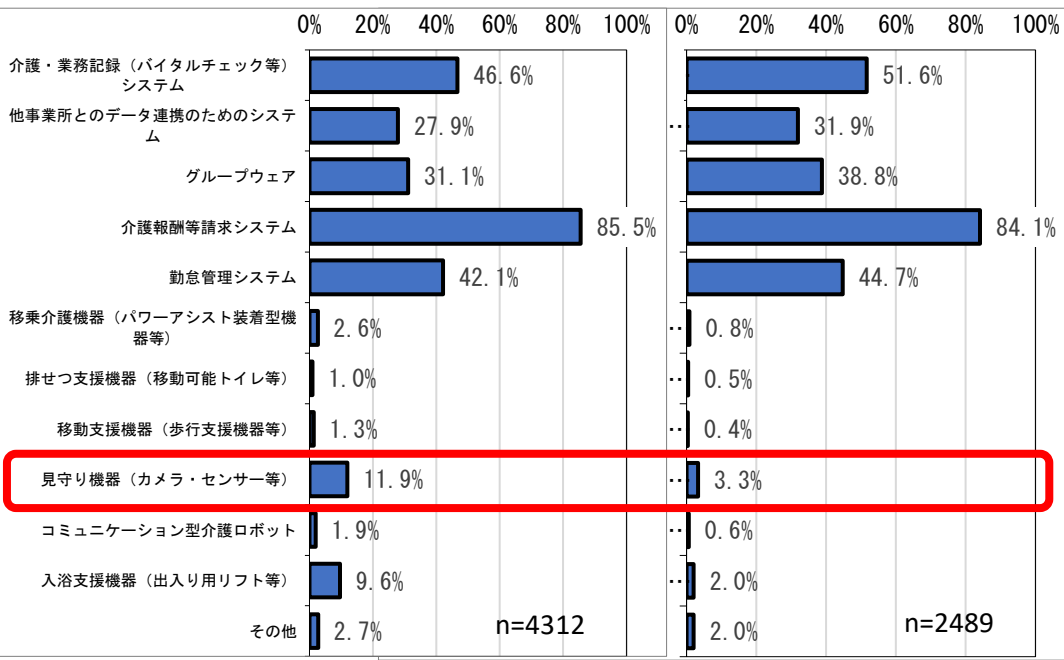
○在宅系では、ICTおよび機器・ロボット等の活用に関して、導入している事業所の内、最も導入実績があるものは「介護報酬等請求システム」が通所等85.5%、訪問84.1%である。次に「介護・業務記録（バイタルチェック等）システム」で通所等46.6%、訪問51.6%である。

○施設系で導入・活用している施設の内、ロボットの種類に関する導入実績は「見守り・コミュニケーション」が76.6%、ICT機器の活用方法としては「パソコンで利用者情報の共有している」が90.7%、介護福祉機器の導入実績のあるものは「ベッド（傾斜角度、高さ調整可能）」が87.3%とそれぞれ最も多い。

○在宅系、施設系ともに移動支援機器、排泄支援関連の導入実績が低い傾向にある。

問 事業所における、ICTおよび機器・ロボット等の活用に関して導入実績のあるものについてお答えください

【○在宅系（通所等）】 【●在宅系（訪問）】

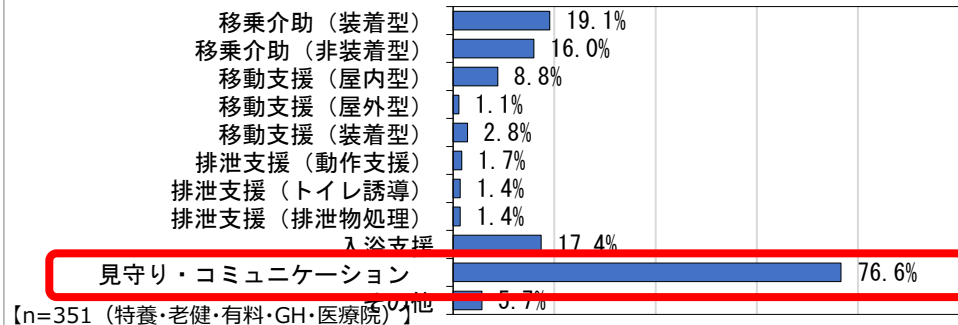


出典：東京都福祉保健局高齢社会対策部「令和4年度在宅サービス事業者等運用状況調査」
東京都福祉保健局高齢社会対策部「令和4年度施設・居住系サービス事業者運営状況調査」

【☆施設系】

ロボットの種類

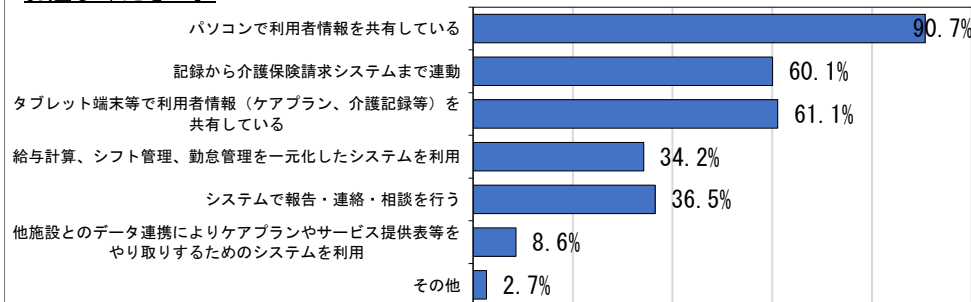
問 貴施設において導入しているロボットの種類を全てお選びください。



【n=351（特養・老健・有料・GH・医療院）】

ICT機器の活用方法

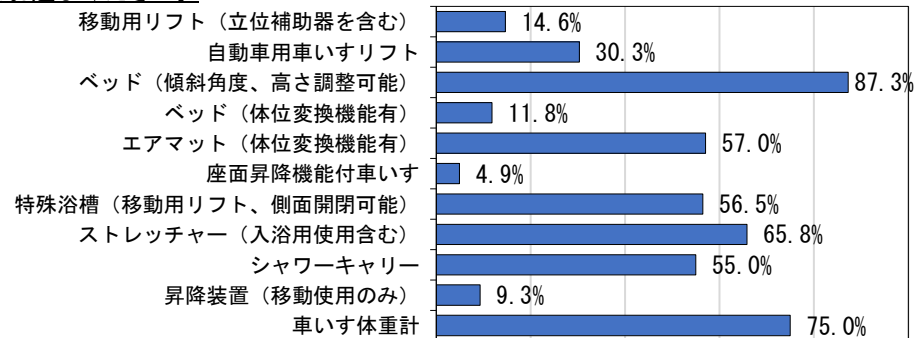
問 貴施設において導入しているICT機器の活用方法について、当てはまるものを全てお選びください。



【n=964（特養・老健・養護・軽費・有料・GH・医療院）】

介護福祉機器の種類

問 貴施設において導入している介護福祉機器の種類について、当てはまるものを全てお選びください。



【n=1059（特養・老健・有料・GH・医療院）】

ICT等の活用の導入推進の課題

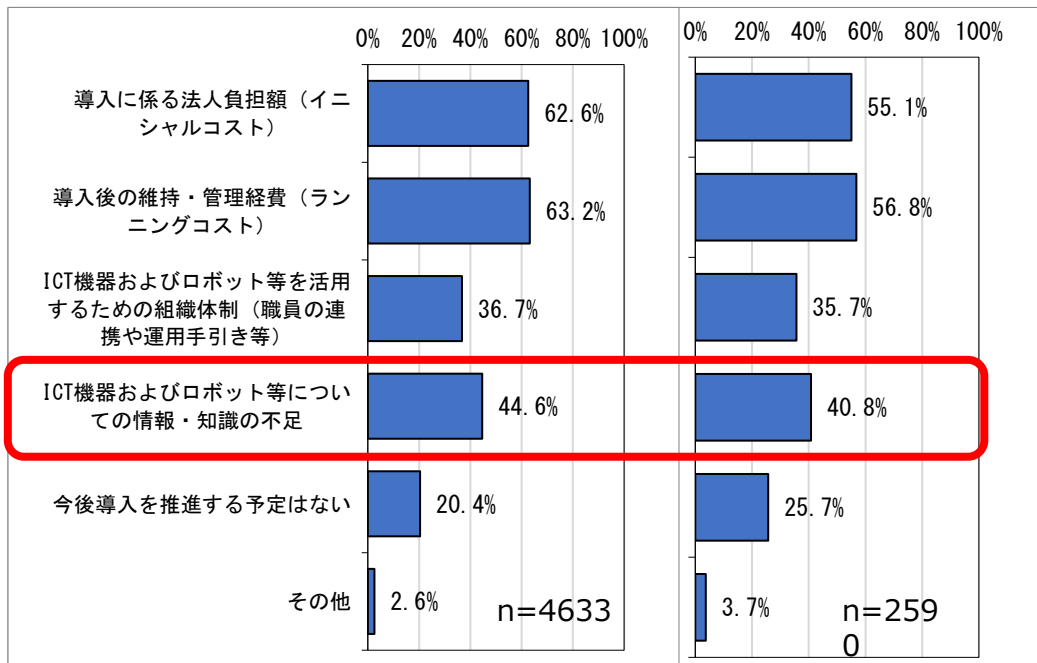
○在宅系（通所等・訪問）では、今後のICT機器およびロボット等の推進するための課題として「導入に係る法人負担額（イニシャルコスト）」「導入後の維持・管理経費（ランニングコスト）」との回答が多い。

○施設系では、ロボット・ICT・介護機器を導入していない理由として、「金銭的に導入が難しい（導入に係る法人負担額や導入後の維持・管理経費等）」が51.1%と最も高く、在宅系と同様にコスト面が最大の課題として考えられる。一方で、次に「必要性を感じていない（施設規模、必要入居者がいない）」21.7%が高い結果となった。

問 事業所における、今後のICT機器およびロボット等の推進するために、課題であると考えられるものにお答えください。（複数回答）

問 ロボット・ICT・介護機器を導入していない理由があれば教えてください。（自由回答）

【 ○ 在宅系（通所等）】 【 ● 在宅系（訪問）】



【 ☆ 施設系】

